

「チツタゴン」「コツクスバザー」「モンドウ」附近飛行場ノ新設及擴張ト共ニ有力ナル戦闘隊ノ進出アルベク緬甸領内ニ於ケル制空權ノ獲得ニ努ムルナラン 其ノ他ノ方面ニ於テハ積極的企圖ヲ認メズ

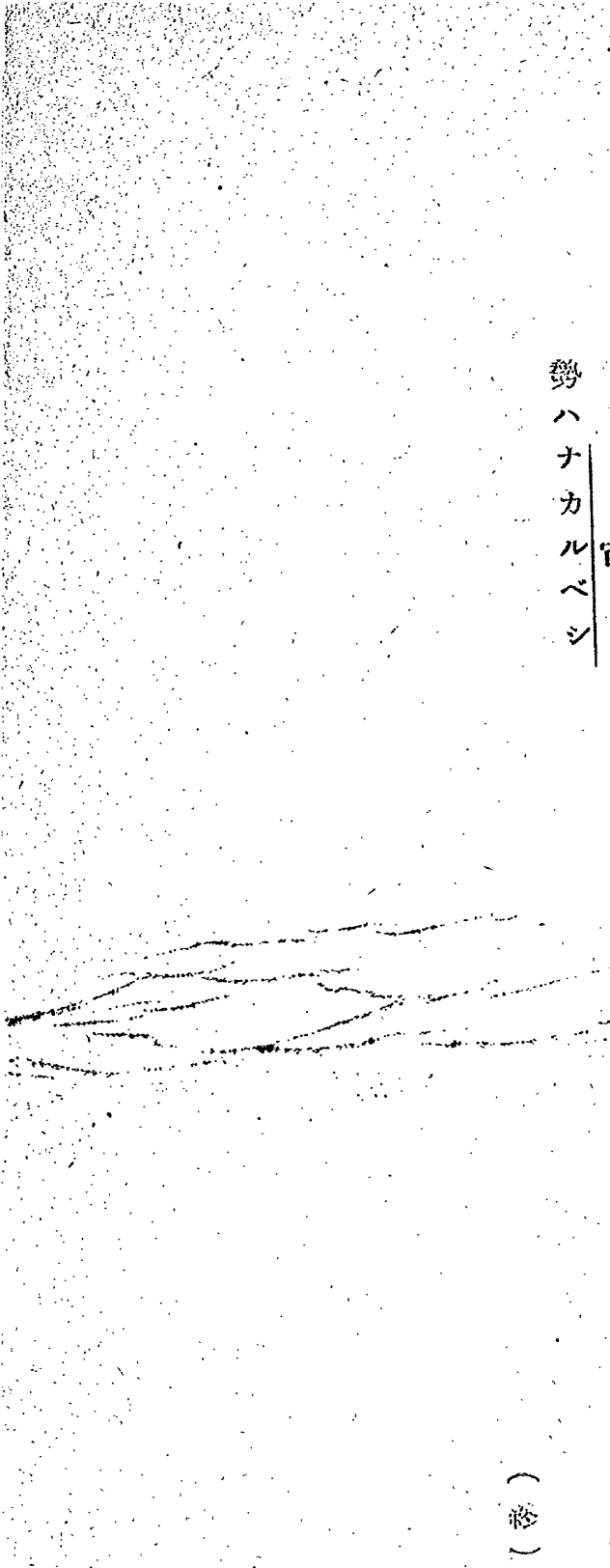
### ニ、濠洲方面

「バンドラ」海諸島ニ對シ我ガ兵力増加ヲ察知シ北部濠洲防衛強化ニ努メアリ大型爆撃機増加等ニ依リ同諸島方面ノ航空ニ飛行場港灣等ニ對スル空襲ハ活潑化セン 中部「ニューギニア」南岸地方ニ對シテハ飛行場ノ新設及擴張等ニ依リ陸上基地ヲ推進シ一部陸軍部隊ヲ進モアルベシ

### 三、亞南支那方面

257

0776



(1) 北部僑印國境正面ニ對シ兵力増強ヲ企圖シアルガ如キモ未ダ  
攻ノ徵ヲ認メズ 航空機ヲ以テスル北部僑印要地ニ對スル攻撃  
ハ増加セン

(2) 怒江方面一部ノ兵力ヲ以テスル擾亂攻撃ハアルベキモ積極的攻

勢ハナカルベシ

(終)

第三課

中戦

# 秘親展

昭和一八三一四

電報

次長宛 陸軍部 陸軍隊 總參謀長

南參一電第九八五號

四月上旬頃ノ敵情ヲ左ノ如ク判断シアリ

一 緬甸方面

英印軍及蔣軍ハ相呼應シテ雨季明ケ以降ニ於ケル全面的攻勢ヲ準備シアルモノノ如キモ目下ノ所ハ一部擾亂行動ニ出ヅルニ過ぎザルベク先般來「アキヤブ」方面ニ對シ行ヘル敵ノ攻撃モ其ノ威力大ナラズシテ早晚排除セララルベシ 尙雨季明ケ以降ニアリテモ

299

0778

烈ナル空襲ハ豫期セラルルモ地上ノ侵攻ニ關シテハ若干兵團ノ増  
加ヲ得バ大ナル憂慮ヲ要セザルベシト判斷セラル

細部ニ就テ記セバ左ノ如シ

(1) 「イムパール」方面ニハ若干兵力ノ増強ヲ見「イムパール」

「カレワ」道ノ補修ヲ實施シアルモ未ダ攻勢ノ企圖認ムベキモ

ノナシ 但シ一部ノ有力ナル部隊ヲ「テンドウイン」河ノ源ニ

進出セシメ攻勢ノ前進據點タラシムルト共ニ北部緬甸ニ於ケル

交通遮斷其ノ他ノ擾亂ヲ企圖スルコトアルベシ

(2) 「アキャブ」方面ハ敵軍ノ戰意旺盛ナラズ單ニ努メテ前方ヲ占

據シ飛行隊ノ進進ニ依リ我ガ後方要點ノ爆撃ヲ強化スルヲ以テ

政略及戰略的優位ヲ獲得セント努力シアルモノノ如ク地上進攻

ノ威力ハ大ナラズ

(8) 蔣軍ハ怒江正面ニ兵力ヲ増加シ印度東北部ノ兵力ヲ強化シ且指揮組織ヲ改編スル等緬甸奪回ノ爲ノ諸準備ヲ實施中ナルモノノ如キモ補給ノ困難整備ノ劣弱ノ爲其ノ第一線ハ依然行動消極的ニシテ進攻ノ徵ヲ認メズ專ラ英印軍ノ動向ニ追隨シアルモノノ如シ

#### 二 濠洲方面

堅部隊方巨艦島増強ニ刺戟セラレ我が進攻特ニ空軍ノ攻取ヲ極度ニ警戒シアリテ未ダ進攻ノ企圖ヲ認メザルモ今益々航空勢力ヲ強化スルヲ以テ我が兵力輸送及後方補給ノ遮断、飛行場ノ新設、擴張工事ノ妨害、主要ナル既設港施設等ニ對スル空襲ヲ逐次積極化スベシ從ヒテ補給及連絡等ハ一切船舶ニ依存セザルベカラズ各方面ノ陸行ハ困難ノ慮ヲ加フルニ至ルベシ

三 西南支那方面

長沙及重慶方面ヨリ有力ナル部隊ノ南下ヲ企圖シアルモ其ノ行動極メテ緩慢ニシテ先ヅ雲南附近ニ兵力ヲ集結シ怒江及北部緬印兩方面全般<sup>?</sup>的ノ豫備ヲラシムニ止ムベシ

(1) 北部緬印國境正面ノ敵糧秣ノ不足、逃亡者ノ續出、匪賊橫行等ノ爲志氣邁越シ專ラ障地ノ強化整訓ニ任ジアリテ進攻ノ徵ヲ認メズ

(2) 廣州灣方面ニ對スル艦兵力移動ハ渡部隊ノ爲牽制セラレ其ノ行動極メテ活潑ナラズ

(終)

第三編

# 極秘

作戰

電

報

三二  
三二  
一三  
一九  
一五  
〇〇  
發

昭和一八三二四

二四  
一三  
一〇  
〇五  
點受著

岡部隊總參謀長

通電先 次長 支總 剛隸下軍司

南參一電第一三一號

週間戰況第八號

其ノ一

緬甸方面

一「アキヤブ」方面

十三日夜ヨリ全線ニ亘リ開始セル攻撃ハ戰況有利ニ進展シ「マユ」

213

0782

河左岸「チズエ」附近ニ於テ敵ヲ捕捉殲滅シ遺棄死體八六〇、俘虜一二〇ヲ獲得ス。「ランチャン」「ドンベイク」正面ノ敵依然

頑強ニシテ執拗ナル攻撃ヲ反復シアリ

棚橋支隊ハ「ランチャン」正面ノ敵ノ退路ヲ遮斷スベク二十日朝

現在「ガサンボウ」右岸地區ニ於テ「マユ」河渡河準備中ナリ

ニ「チンドウイ」河方面

「チンドウイン」河ヲ渡河東進セル敵主力ハ我が掃蕩ニ依リ四散セルモ尙約五〇〇内外ノ敵「イラワジ」河沿岸「チジャイン」、  
「タガウン」附近ニ在リ

弓、菊、龍各兵團ハ包圍態勢ヲ整へ之ガ殲滅ニ努メツツアリ



其ノ二

西南支那方面

一 第二軍西進状況

軍司令部ハ十二日

「ドケウ」  
渡橋

（従軍西北方二五料）ニ新篇第三

三師ハ十四日廣遠ニ到着セリ

一 北部佛印方面ニ於ケル敵ハ十六日及十九日艇機數八機ヲ以テ鐵

道沿線ヲ銃爆撃セリ

其ノ三

一 バンダシ海方面

一 「フリーマントル」ヲ基地トセル敵潜水艦ハ最近盛ンニ「バン

ダシ」海ニ出沒シ我が行跡ノ偵知ニ努メツツアルモノノ如シ

敵機ノ砲撃依然活潑ニシテ十七日「クーパーン」十九日「アンボ  
ン」ハ夫々最初ノ夜間爆撃ヲ受ケ「カイマナ」「ドボ」間ノ海  
上「トラック」艦送モ十五、六日執拗ナル攻撃ヲ受ク

(終)

216

0785



作戦

至急極秘

電

報

四	一	一	一
一	一	一	一
六	六	八	八
〇	〇	二	二
八	〇	四	一
五	四	〇	二
五	〇	〇	〇
點	受	著	發

昭和一八四一九

岡 部 隊 長

通電先 總長

參 考 森 司

南參一電第五七一號

「アキヤブ」方面ノ作戦ニ關シ重テ優渥ナル御嘉賞ノ御言葉ヲ  
賜リタル旨拜承ス

將兵一同誠ニ恐懼感激ノ至リニ堪ヘズ  
愈ト感奮興起敵擊滅ニ邁進シ以テ

聖旨ニ副ヒ奉ルコトヲ誓フ

(終)

217

0786

秘

作  
戰

電  
報

次  
長  
宛

南參一電第五六五號

參電第七八二號返

一英印軍戰力判斷資料特ニ戰力充實ノ狀況

印度正規師團編成裝備ハ概ネ甲基本裝備ニ達シアルモノノ如ク

又作戰地ニ應ズル編成裝備ノ改編竝ニ教育訓練ニ努メアリ

戰意ハ白人大隊ハ見ルベキモノアルモ印度人大隊ハ一般ニ旺盛ナ

ラズ

岡	四	昭和一八四一九
部	一八	〇〇發
隊	一八	〇〇著
總	二二	〇〇受
參	二二	〇〇點
謀	四七	
長		

參考資料

(1) 印度第一四師團ノ編成裝備ハ概ネ甲基本裝備ニシテ緬甸作戰當

時ニ比シ步兵大隊ニ於テ輕機關銃數ハ五割、二吋迫撃砲ハ約一

〇割ヲ増加シアリ

特ニ從來裝備劣弱ナリシ印度人大隊モ英人大隊ト略々同程度ニ

達シアリ

(2) 野砲兵聯隊ハ概ネ十榴級ニ改編セラレアリ

(3) 第一四師團ハ概ネ六箇旅團編合セラレ又第六旅團ハ白人大隊四

箇ヲ以テ編成セラレアルモノ如シ(海岸方面ノ損害大ナリシ

爲交代セル旅團モ一時指揮下ニアリタルガ如シ 即チ從來ノ如

ク英印軍ハ編成ヲ重視セズ又敵ハ「ジャングル」内ノ戦闘及

上陸戦闘等特別ノ訓練ヲ受ケアリ

(4) 「トリプラー」王領軍等ハ特殊部隊ヲ編成ス

裝備訓練等共ニ劣弱ナリ

(5) 支那入部隊ナル特殊部隊ヲ組織的ニ編成訓練シ國境各方面ニ配置シ作戰部隊ニ先行シ諜報謀略ニ任ゼシメアリ

ニ敵軍戦法中注意スベキ諸點

(1) 我方後方補給路ニ對スル海空ヨリスル妨害ハ執拗ナリ

(2) 敵ノ空地通信連絡ハ良好ニシテ地上部隊ノ要求ニ應ジ敵航空隊

(爆撃、戦闘共)ハ密ニ協力シアリ特ニ輕快優秀ナル無線機ヲ保

有ス

(3) 飛行機、戦車、砲兵及煙彈等ノ組織的協同作戰ハ小規模ナルモ比

較的良好ニ實施セラレタリ

(4) 攻撃ニ方リテハ徹底的火力集中主義ニ依リ歩、戦、砲、空ノ協同

ヲ重視シアルヲ以テ陣地構築ニハ留意ヲ要ス

(5) 白兵使用ノ例ハ僅少ナルモ手榴弾戰ヲ度々實施セリ敵ハ其ノ兵力

ヲ展開スル場合小部隊ヲ以テスル迂回夜襲等活潑ニ之ヲ行ヒタリ

(6) 今次作戦ニ觀ルニ師團統帥ハ良好ナラズ又隣接部隊トノ連繫不良

ナリ

(7) 對陣中第一線ニ放送機ヲ設置シ我が軍隊ニ對シ宣傳ヲ行フト共ニ

我が軍隊及一般住民ニ對シ傳單撒布ヲ行ヘリ我が宣傳ニ依リ投降

セル部隊アリハ主トシテ印度兵ニ敵ハ我が宣傳ノ效果ヲ認ムルト

共ニ將來モ第一線ニ對スル宣傳ニ努ムルナルベシ

(8) 第一線附近ニ潛入セシメアル諜者ニ依リ爆撃目標ヲ選定シアリ  
ノ疑アリ無線諜者ニハ特ニ注意ヲ要ス

(9) 側背ニ對スル戦略的感受性ハ鋭敏ナルモ戰術的關心ハ意外ニ稀  
薄ニシテ情報ニ疎キカ無關心ノ爲カ奇異ヲ感ズル程度ノモノアリ

### 三 工事作業力

(1) 「アキヤブ」方面ニ於テハ飛行場、道路竝ニ陣地ヲ構築スルニ  
ハ特種器材ヲ用ヒタル形跡ナシ

(飛行場構築ニ際シテハ乾潤セル水田ヲ選定畦ヲ削リ墜延セル  
程度ノモノアリ)

住民徴傭等ニ依リ晝夜兼行必要ナル飛行場及道路作業ヲ繼續ス



作業ニ對スル熱意、努力ハ敬服スベキモノアリ例ヘバ「カラダ  
ン」河谷方面ニハ第一線進出直後著陸場ヲ整備シ輸送機ニ依ル  
患者後送ヲ行ヒタルモノノ如シ

- (2) 道路建設、改修、橋梁構築等迅速ニシテ作業力優秀ナリ
- (3) 筏ニ依ル渡河、兵力軍需品ノ輸送等工夫ノ跡ヲ認ム
- (4) 敵陣地ノ編成其ノ工事狀況等ハ更ニ調査ノ上報告ス

(終)

223

0792

(第三課)

秘

作戦

電報  
次長宛  
南参一電第三三號

共  
一七二五〇發  
一八〇三〇著  
一八〇三〇受  
一八一四〇點

岡部隊 總参謀長

週間戦況第十六號

第一、緬甸方面

(1) 楯兵團ハ十一日「ブチドン」周邊ノ掃蕩ヲ完了一部ヲ以テ敗敵

ヲ追撃シ主力ハ逐次集結中

(2) 敵ハ雨期前ニ於ケル「アキャブ」寮岡企圖ヲ放棄極力南方ニ地

歩ヲ獲得シ我方前進阻止ニ努メアルモノ如シ

224

昭和一八六一八

0793

(8) 四月十六日以降五月十日迄「ブチドン」攻略戦ニ於ケル戦果

225

(官廳、棚橋、礪子田文隊ヲ除ク)

遺棄死體一六〇〇以上 俘虜九一 斃死馬三〇〇 戦車及牽引

車一〇 迫撃砲三四 自動砲八 自動貨車一八一 小銃二六八

自動小銃四六 輕機四九 其ノ他多數

(4) 敵機ノ蘭貢ニ對スル攻撃ハ稍々不活潑トナリタルモ中部緬甸ノ

飛行場、交通線及「アキヤブ」前線ニ對スル攻撃等ハ續ケアリ

## 第二、西南支那方面

(1) 沿江方面ノ敵ハ依然進攻ノ企圖ヲ認メザルモ宛時敵ノ遊撃行動

ハ逐次活潑化ノ傾向ニアリテ配兵團ハ五月十日ヨリ之ガ徹底的

討伐ヲ期シテ行動中

0794

(2) 中支方面ノ我々作戰遂行ノ影響ニ依リ一部兵力ヲ該方面ニ増強セントシアルモノノ如ク衡州駐在四六軍ノ主力ハ北上ヲ開始セリ

(3) 中南支米空軍ノ行動ハ相當ニ活潑化シ最近天候不良ニシテ補給活動ヲ拘束サレアルニモ拘ラズ北部印ニ對シ偵察監視ヲ實施シアリ其ノ動向注意ヲ要ス

### 第三 西南太平洋方面

(1) 「ニューギニヤ」方面

(イ) 「ワウ」附近ノ敵ハ一部出撃ヲ爲セル外大ナル變化ナシ

(ロ) 「オロ」 「ミルン」 「マンバレー」 灣ニ對スル敵輸送船ノ行動ハ活潑ニシテ兵力ノ増強交代ヲ行フモノノ如ク海軍航空隊

ハ數次ニ置リ該敵ヲ攻撃シ多大ナル戰果ヲ擧ゲタリ

(ハ) 敵ハ「ラケカム」河「ワウ」間ノ交通路ヲ重視シ該路ノ整備

ヲ急ギアリ

(ニ) 堅集團方面ニ對スル敵機ノ來襲狀況ヲ觀ルニ月明ヲ利用シ急

襲的ニ我が軍集結地飛行場ヲ攻撃シアリ 注意ヲ要ス

(ホ) 東部「ニユーギニヤ」ニ對スル剛ノ進行強送ハ高難ヲ辨シ順

調ニ進行中ナリ

(カ) 「ソロモン」方面

「エスピリット」島方面ニ有力ナル増強部隊集結シアリテ

「ガ」島方面ニ進出ノ公算大ナリ 「ツラギ」 「ルンガ」附近

敵艦船ノ動向依然活潑ニシテ「ムンダ」 「コロバンガラ」地

區ハ十三日敵ノ砲撃ヲ受ケ同地區ニ對スル敵機ノ攻撃又執拗ナ

(終)

227

0796

第三課

日誌用 極秘

昭和十八年六月

電報  
六月一日  
六月二日  
六月三日  
六月四日  
六月五日  
六月六日  
六月七日  
六月八日  
六月九日  
六月十日  
六月十一日  
六月十二日  
六月十三日  
六月十四日  
六月十五日  
六月十六日  
六月十七日  
六月十八日  
六月十九日  
六月二十日  
六月二十一日  
六月二十二日  
六月二十三日  
六月二十四日  
六月二十五日  
六月二十六日  
六月二十七日  
六月二十八日  
六月二十九日  
六月三十日

岡部隊 總參謀長

通電先 陸長 航本

南參一電第五二三號

敵機來襲狀況（其ノ一）

第一、緬甸方面

一 概況

(1) 緬甸方面

雨期に入り天候不良ノ爲遠距離ノ出撃ハ著シク減少シ國境附近

ニ於テ雲ノ間斷ヲ利用シ少數機ヲ以テスル奇襲的攻撃ヲ實施シ  
ツツアリ

(ロ) 五月敵機出撃回数二五五回延機九六二機ニシテ戦爆ノ比率ハ四  
對五ナリ 本年一月ニ比シ半減セリ

ニ來襲地區

「ランオ」雲南	八・二%
「メイミヨウ」「ミイトキーナ」	一七・三%
「タウンジー」「エナンヂョン」	二四・七%
「アキヤブ」「ブROOM」	三四・一%
「バツセイン」「ヘンサダ」	〇・四%
「モールメイン」「クボイ」	二・〇%
蘭資	五・一%
「マングレー」	八・二%

三 攻撃目標

鐵道油田地帯飛行場及軍需品集積場ヲ目標トシアリ

六月十二日B一三四、六機建設中ノ泰緬連接鐵道「タンビザヤ」

驛ヲ（緬甸側連接鐵道基點附近）爆撃セリ

四 使用彈

(イ) 高性能爆彈

(ロ) 焼夷筒

尙蘭貢河口ニ對シ再ビ機雷ヲ投下セリ

五 新現出機種

「ブヲツクバーン」、スキュアラ（元海軍水冷式降下煙爆）

六 戦果



空中戦ニ依ルモノ六機（内不確實一）

高射砲ニ依ルモノ六機（内不確實三）

歩兵火器ニ依ルモノ七機（内不確實二）

我ガ損害

森方參一電第二一七號ノ如シ

（終）

231

0800

日誌用

電報

電

報

八二〇〇〇〇

二一〇〇〇〇

二一〇〇〇〇

岡部隊

總參謀長

通電先 次長 支線 波富治 堅義 信灘 司 第三船司

南參一電第六九五號

印緬國境方面戰況第一號

要旨

敵ハ雨季ヲ利用シ緬甸總反攻態勢ノ整備ニ努メ勢力圏ノ擴張竝ニ第一線兵力ノ交代ヲ實施スルト共ニ後方補給施設ノ完備ヲ圖リツツアルモノノ如シ 特ニ南部印緬國境正面ニ於テハ顯著ナルモノアリ

昭和一八八三一

(1) 「モンドウ」 「ブチドン」 正面ノ敵ノ展開兵力ハ約一二、〇〇〇ト判

斷セラレ師團司令部（第二六師團）ハ「ウキヤガツト」ニ在ルモノノ  
如ク同地ヨリ「ナーフ」半島方面ニ對スル兵力増強及軍需品輸送  
ハ活潑化シツツアリ

(2) 七月末頃ヨリ約八〇〇ノ敵「モードック」 （「ダレトナ」西方ニ

○ 軒）方面ヨリ「ビー」河ニ沿ヒ南下シ「カラダン」河谷進出ヲ  
企圖シアルモノノ如ク又一「トングーバザ」<sup>?</sup> 「キョークトウ」  
間ノ道路ハ「リー」河西岸地區迄進捗シアリ

(8) 空中偵察及光機關諜者報ヲ綜合スレバ「チツタゴン」―「ドバザリ」―「ウキヤガツト」間ノ鐵道ハ既ニ「ラム」迄完成シア  
ルモノノ如ク自動車道モ之ニ平行シ構築中ニシテ又最近第一線  
兵力ノ交代頻繁ニ實施セラレアリ

(4) 高部隊諜者報(確度乙、丁情報ト稱ス)ニ依レバ印度第一四師  
團ハ甲谷陀附近ニ後退近ク「ランシ」ニ移動スルモノノ如シ  
又北阿「ドブルグ」ニ於テ獨軍ト交戦セル英第一七師團ハ甲谷  
陀附近ニアルモノノ如シ

#### 兵 中 部

(1) 敵ヘ雨季ニ入ルヤ主力ヲ後方ニ集結スルト共ニ小部隊ヲ派遣シ  
我方軍狀ノ偵知、進攻ノ警戒ニ努メツツアリ「コヒマ」附近ニ

アリシ印度第一七師團ハ「インパール」附近ニ移動セルガ如キ  
モ其ノ後ノ行動不明ニシテ或ハ他ノ兵團ト第一線ヲ交代セルニ  
アラズヤト思惟セララル節アリ

(2) 八月七日「チン」高地第三「ストツケード」ノ我が陣地ニ對シ  
「チエツコ」輕機一二重機(數不明)ヲ有スル敵約四〇〇ハ三  
回ニ亘リ攻撃シ來レルモ我が守備隊ハ之ヲ擊退ス

敵ノ戰鬥機二―四機ハ約二時間之ト協力銃撃ス

七月末優秀ナル守備部隊ト交代セル敵ハ之ヲ樹トシテ「ストツ  
ケード」ノ奪回ヲ企圖セルモノノ如シ

(3) 八月八日未明第二「ストツケード」ノ軍需品及橋梁ノ破壊ヲ企  
圖セル敵約四〇ヲ攻撃シ之ヲ潰滅セシム

四 北部

目下大ナル變化ヲ認メザルモ敵ハ雨季ヲ利用シ勢力圏ノ擴大ニ努メ  
ツツアリ

「シンパヤシ」ニ英軍司令部アルガ如キモ未ダ確認スルニ至ラズ

(終)